

O-1 館野宏彰（東京大学）

タイトル：ボーリングデータから示唆された世田谷区東部の活構造

＜選定理由＞

本研究は、これまで伏在活断層の分布を示すことが困難であった東京都区部において、高密度に存在するボーリングデータを整理し、鍵層の分布高度を比較することにより抽出した境界面に急傾斜帯を新たに認め、東京都区部に活構造の存在の可能性を論じたものである。データや分析手法は従来から用いられているものではあるが、GIS を用いて大量のボーリングデータの丁寧な整理と客観的な分析を行っており、急傾斜帯の新たな認定につながる成果となった点が評価できる。また、発表も論旨が明快でわかりやすく、質問への対応も適切に行われていた点などが評価された。